

**毎日フィールドに出る
ガイドだからその情報を！**

はじめまして。琵琶湖ガイドの大仲です。今月号からおくむらさんとのリレー方式で、コラムを書かせてもらうことになりました。

ボクの簡単な自己紹介ですが、琵琶湖でのバスフィッシングガイドが本職となります。また、毎日のガイドシーンから生まれるアイデアを具現化したのが、邪道ガイドブライドシリーズで、まさに名の通り、ガイドとしてのブライドを賭けたフィールド直結のルアー作りを心掛けています。そんな中、ボク自身が邪道からプロデュースしたのは、ジャギーテイルと、Jクラスターで、現在この2アイテムが発売されています。さらにガンクラフトからはガンジグ、コアヘッドも発売されています。そこでこのコラムでは邪道アイテムの紹介はもちろん、毎日フィールドに浮くガイドだからこそ感じる、新鮮でタイムリーな情報をお届けできればと思っています。

で、気になる琵琶湖の状況ですが、5月後半から6月にかけて、バスの全体的な動きはアフタースポーンから早ければアーリーサマーパターンへと移行していきます。ボクがこの時期にメインにしているのは琵琶湖の南湖で、それより北に位置する北湖は、緯度や水深、まわりの環境から季節の進行が南湖よりも遅れますというわけで今回の説明は、南湖をメインに進めていきたいと思います。

はじめまして、マサキオーこと大仲正樹です。

シヨンジグヘッドなど、基本的にはスローな動きに反応がよく、口を使わせるにはスローな展開が必要となります。なぜなら産卵後のバスは体力を消耗しており、速いルアーの動きについていけないからです。縦に「ストツ」と落ちる動きや、目の前でステイできるルアーがベストで、具体的にはジャコビーやジャギーテイルのジグヘッドが有効となります。

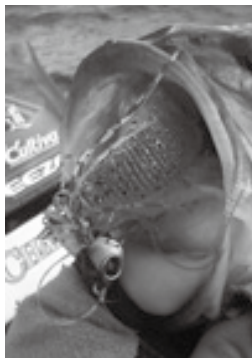
さらにサイズを絞り込みたいならガンジグ、コアヘッドのリアクシヨンもありです。ラバージグのリアクシヨンは夏のイメージが強いかも知れませんが、実はアフターやブリなど、時期に関わらず効くことがあり、バスの活性がスローな状態であれば、ジグヘッドの縦の動きの延長線上でラバージグに反応することがあるんです。覚えておいてくださいな。

アフターの解説はここまでとして、その後、体力を回復したバスは果敢にベイトフィッシュを追うようになります。横の動き(巻き物)に反応がよくなるのもこの時期からで、ここでぜひ使っていただきたいのが今シーズン発売の、Jクラスター5g、7gのライトウエイトバージョンです。今までスイミングジグで攻め切れなかった濃いグラスエリアや、シャローに対応できるウエイトになっています。昨年リリースされた10g、14gと同じくツイストロック5/0を採用することにより、高いスナッグレス性能も継承。今までテキサスのスイミングに頼っていたエリアもスイミングジグでサイズアップできるかも!? です。トレーラーは5インチクラスのシャッドテールがオススメです。Jクラスターはスタグやクラウンシャッドとの相性抜群! です。

6月になれば、スイミングジグなどの巻き物はもちろん、トップやビッグベイトも楽しみですね。釣りの幅がグンと広がる季節だけに楽しさも倍増! 春よりはアングラーも少ないので、ビッグサイズと出会えるチャンスかもしれませんね!!



ゲストさんにロクマルが! ランディングの瞬間、最もやりがいを感じるのです



6月に入ると巻き物はもちろん、トップウオーターやビッグベイトも期待できます。ぜひ、琵琶湖へ!



Jクラスターに5gと7gが追加されます。これからのシーズンの必須アイテム



おくむら・おおなかりレーコラム

**I AM MASAKI-O
アイアムマサキオー**

おくむらさんからバトンを受けた、「マサキオー」こと大仲正樹です!
ボクが担当する記念すべき第一回ということで、まずは簡単な自己紹介を。
そして絶対タメになる、琵琶湖攻略のアドバイスをさせてもらおうと思います。
というわけでみなさん、今後ともどうぞよろしくお願いします!

大仲正樹 (http://www.masaki-guide.net/) =文